

し遊女高尾が墓碑を摺りてもちたるを、四谷にすめる醫生淺井春昌といふもの、うつしたりとて、島田某の見せたるをしるす、

二代目

三巴の紋

淨享保元丙申年十一月廿五日林院妙讚日晴大姉

于時正徳五年二月二十九日

逆修

梶原常之助源範清義母行年七十七歳

右の碑、仙臺荒町法龍山佛眼寺に在、仙臺の人のいふ、高尾實は國侯に従ひて奥州にいたる、杉原常之助といふは、義子にて名跡をたて給ひたるにいひ傳ふ、享保元年七十八歳にて天壽を終るといふ、

綱宗朝臣は、正徳元年六月四日卒去、享年七十六歳、仙臺瑞鳳寺に葬す、法號雄山全緘見性院といふ、

〔世事百談〕遊女總角が世代

世の口ずさみに、高。雄。七。代。薄。雲。三。代。總。角。一。代。といふことあり、高雄は古人の考ありて、世代も事蹟もいと明なり、按ずるに、總角は一代にはあらず、兩巴扈言享保十年に、三浦屋四郎左衛門内に、あげまきあり、又享保十九年の細見に、△あげまきあり、元文五年の細見にかうしあげまき、寛保三年の細見にはあげまきなし、その後延享四年の細見にかうしあげまきあり、延享五年の細見、寛延二年の細見に、あげまきあり、寶曆四年△あげまきまのぶ同五年の細見に、△あげまきまのぶのじんとあり、同八年に三浦の家絶えたり、これによりておもへば、兩巴扈言より元文の間に見えたるあげまき一人にて、延享四年より寶曆五年までを、又一人ともおもはるれば、これにて二代はありとえられたり、これより先正徳四年に、助六の狂言をはじめてえたる時に、揚卷の役玉澤林彌なり、享保よりはやく已にあげまきあれば、すべて三人はありともおもはるゝものから、猶